

授業科目名 英 文 名 ナンバリングコード	教養特殊講義 現代社会と法 自然災害と法-対応 復旧 復興-		授業科目区分				職名	担当教員	
	対象学期	対象学年	単位数	授業方法					
	99905 II AJ		夏期集中	2年	2単位	講義	教授	森脇祥弘	
授業概要	<p>地域に甚大な爪痕を残した震災からの再建と支援の完遂を未だ見ない中で更に別の災害の注意情報が発出される状況にある現代社会にあって、これまでの災害とその備え・対応・復旧・復興の経験から知見と教訓を汲み取り継承する営為を続ける地域内外の叡智を結集し、法・経済経営を中心とする社会科学の観点から「二寸先」を見通す知見と課題認識の共有へ向けて集中的に学ぶ。</p> <p>【授業の狙い】「専門知識を養いリーガルマインドを身につけ(CP2)」「社会・地域・組織の一員(DP4)」としての能力を習得することを狙いとする。</p> <p>【コースとの関連】全てのコースで重要な科目である。</p>								
到達目標	<p>1 被災関係者・災害対応専門家らの講義を通じて災害のもたらす惨禍を再認識し、いっどこで発生する可能性も否定できない災害に対し想定可能な備えを怠らず、また偶々自己から遠いところで発生した災害を他人事と捉えず共助を通じて克服する心構えを身につけること。</p> <p>2 これまでの災害とそれへの対応・再建支援の蓄積から抽出された知見・教訓と残された課題と将来見通しにつき、主に法制度・インフラ・被災者支援等社会科学の見地から行われる講義から獲得した知見に立脚し、社会人・主催者として災害に対する強靱化の在り方・方策について洞察する力を身につけること。</p>								
実務経験の有無	x	実務経験のある教員等による授業科目の学修成果	講義は大学教員・有識者・専門家等のゲストスピーカーを招聘し実施する。(登壇予定の講師等は講義1か月前を目途にウェブサイトにて公開する)。						
コンピテンシー (行動特性) 「伸ばすことのできる能力」	協調性		傾聴力		創造力		論理的思考力		
	○		◎		○		◎		
講義方法	配布資料・スライド・映像等を用い講義する。なお、諸事情により講師変更、オンラインでの受講や本学学生のみでの受講となる場合がある。								
授業計画	回数	内容							
	第1回	天災地変と法－災害復興法学 弁護士 岡本正氏							
	第2回	同上							
	第3回	天災地変と法－総論 復興庁元次官 岡本全勝氏							
	第4回	自然災害と法－倒産法の視点 慶應義塾大学名誉教授/本学客員教授 中島弘雅氏							
	第5回	自然災害と法－民法の視点 立教大学名誉教授/本学客員教授 角紀代恵氏							
	第6回	自然災害と法－企業の視点 本学客員教授 菅原貴与志氏							
	第7回	災害から社会を守る 対応の最前線から 富山県危機管理庁次長 中林昇氏							
	第8回	災害から社会を守る 対応の最前線から 富山県砂防博物館館長 成瀬龍哉氏							
	第9回	災害から社会を守る 対応の最前線から 厚生連高岡病院看護師長 田畑智子氏							
	第10回	自然災害と企業－災害と税制 本学教授 野口教子氏							
	第11回	自然災害と企業－防災のナレッジマネジメント 本学教授 八坂徳明氏							
	第12回	自然災害と企業－災害に対する企業法対応の展開と課題：ケーススタディ 本学教授 森脇祥弘							
	第13回	災害の現場から 石川県危機管理部企画調整室次長 中田雄士氏							
	第14回	災害の現場から 富山大学教授 原隆史氏							
第15回	災害の現場から－パネルディスカッション 上記二氏 氷見市副市長 篠田伸二氏 司会：本学客員教授 高橋正樹氏								
評価方法	レポート(50%) 平常点(50% 受講姿勢・参加度 含質問15%)。なお、受講態度が講義及び他の受講者の聴講の妨げとなり、再三注意しても改まらない場合は退出・以後の入場禁止・平常点減点・失格・所属教育機関への連絡等の対応をやむを得ず探る場合がある。								
課題(試験やレポート等)のフィードバック方法	レポートの総評を本学Google クラクルーム・システムに掲出する。								
使用資料	テキスト	資料を配布または投影する。							
	参考図書	各授業の中で紹介する。							
受講上の注意、備考など	本科目は県大学コンソーシアムの単位互換科目であり、県内高等教育機関在籍の学生は所属教育機関で定める履修条件に従い、教養科目2単位を取得できる。夏季集中講義のため、実施態様については告知を参照すること。本学開講科目で成績評価・単位認定の資格を得るには3分の2以上の講義回への出席とレポートの提出を要する。								
事前・事後学習(学習課題)	事前	各回の授業計画を見ながら、メディア・図書検索等で予習(60分程度)							
	事後	授業内容について配布資料・ノートを参考にしながら復習(60分程度)							
オフィスアワー	木曜2限(会場待機)								